

農 試 第 118-3 号
令 和 3 年 4 月 27 日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| | | |
|--------|--------------------------------------|--------|
| 連絡先 | 福井県農業試験場 | 病害虫防除室 |
| Tel | 0776-54-9315 | |
| FAX | 0776-54-6403 | |
| E-mail | byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp | |

令和 3 年農作物病害虫発生予察予報第 3 号

5 月の気象概況

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに 40% です。

[水稲関係]

病害虫名 苗いもち

1 予報内容

発生時期：初発は 5 月中旬

被害程度：微発

発 生 量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようにする。

(2) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾がらは伝染源となるので除去する。

(3) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には液剤、水和剤で防除する。育苗期の薬剤防除は苗いもちだけでなく、本田での葉いもちを抑制する効果がある。

(4) 5 月中旬の適期移植栽培では、必ず育苗箱施薬を行う。

病害虫名 イネミズゾウムシ

1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入初期は 5 月 4 半旬頃、侵入最盛期は 5 月 6 半旬頃

被害程度：少発、局中発（山間・山沿い）

発 生 量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 毎年発生が見られる地域では育苗箱施薬を行う。

(2) 湛水土壌中直播栽培で種子コーティング時に殺虫剤を混入していない場合、被害が大きくなる恐れがあるので観察を徹底し、被害の恐れがある場合は早期に防除する。

病害虫名 イネゾウムシ

- 1 予報内容
発生時期：成虫の本田侵入初期は5月4半旬頃
被害程度：少発、局中発（山間、山沿い）
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
（1）窒素過多にならないように施肥基準を守る。
（2）代掻き時、幼虫や成虫が多数認められる場合は育苗箱施薬を行う。また、イネ活着後、水際付近の茎に成虫が認められる場合には薬剤防除を行う。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

- 1 予報内容
対象作型：直播栽培、移植栽培（5月下旬以降）
発生時期：加害初期は5月5半旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
（1）直播は被害を受けやすいので深水を避け、産卵場所となる浮き葉、たれ葉を減らす。
（2）発生が多い場合は幼虫発生初期に薬剤を散布する。

[大麦関係]

病害虫名 赤かび病

- 1 予報内容
発生時期：初発は5月上旬
被害程度：少発、局中発
発生量：平年よりやや多く、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
（1）赤かび病が発生すると、赤かび粒を除去することが難しいので、圃場審査を厳重に行い仕分けを行う。
（2）揺動選別機で比重の軽い麦は除去する。

[野菜関係]

| 野菜名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-------------|-----------------------|---------------|-------------|--------------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ネギ | さび病 | | 少発 | 前年: やや多 前年: やや多 | 1) 適正施肥に努め、草勢を良好にする。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける 3) 液剤散布の際には、展着剤を加用する。 |
| アブラナ 科野菜 | モンシロ チョウ | 加害盛期: 5月中旬 | 少発 (局中発) | 平年: 少 前年: 少 | 1) 加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。 |
| | コナガ | 加害盛期: 5月上旬 | 少発 (局中発) | 平年: 並み 前年: やや多 | 1) 定植期から発生初期にかけて防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。 |
| ウリ類 | ウリハムシ (越冬成虫) | 初発期: 5月上旬 | 少発 (局中発) | 平年: やや少 前年: やや少 | 1) 対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。 |
| 全 般 | アブラム シ類 | 初発期: 5月上旬 | 少発 (局中発) | 平年: 並み 前年: 並み | 1) 定植期から発生初期にかけて防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。 |
| | ネキリム シ類(カブ ラヤガ) | 加害盛期: 5月上旬 | 多発 | 平年: 多 前年: 多 | 1) 被害の早期発見に努める。 2) 対象作物により薬剤が異なるので、作物ごとに適切な防除をする。 |

[果樹関係]

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-----|------------------------|--------------------------|-------------|-----------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ナシ | 黒星病 | 初発： 4月下旬 | 少発 | 平年：並み 前年：並み | 1) 脱苞期～交配直後にかけて重点防交配直後にかけて重点防除する。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| | 黒斑病 | 初発： 5月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| | 赤星病 | 初発： 5月上旬 | 少発 | 平年：並み 前年：並み | 1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| ウメ | かいよう病 | 果実初発： 4月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：並み | 1) 常発圃場では予防のため果実肥大期に抗生物質薬剤を散布する。 2) 降雹や強風雨が合った場合、天候回復後すみやかに抗生物質薬剤を散布する。 3) 防風対策を必ず実施する。 |
| | ウメシロカイガラムシ (第1世代幼虫) | 幼虫発生 初期： 4月6半 旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：並み | 1) 予測したふ化時期の1週間前から越冬雌成虫の産卵および幼虫ふ化時期を観察し、適期(ふ化数日後)に薬剤散布する。 2) 越冬成虫のカイガラ着生が多い樹ではふ化初期とその7日後の2回薬剤散布する。 |
| | アブラムシ類 | 加害時期： 4月上旬 ～5月 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：並み | 1) 新梢先端部を観察し、発生初期にすみやかに薬剤を散布する。 |
| | コスカシバ | 幼虫加害 初期： 5月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：並み | 1) 5月上旬にスカシバコンLを10a当たり50本、枝に設置する。 2) 幼虫の侵入部位を見つけ、捕殺する。 |

[花き関係]

| 花き名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-----|-------------|--------------|-------------|------------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| キ ク | 白さび病 | 初発期： 5月上旬 | 少発 | 平年：並み 前年：やや多 | 1) 罹病株が周囲への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 日当たり、風通しを良くする。 3) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 |
| | アブラムシ類 | 初発期： 5月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや少 前年：やや少 | 1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺の除草に努める。 |
| | ミカンキイロアザミウマ | 初発期： 5月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 早期発見に努め、密度の低いうちに薬剤防除する。 |